

ノーリツグループの

カーボンニュートラル実現に  
向けた取り組み



2024年4月24日  
株式会社ノーリツ



背景・事業環境



CO<sub>2</sub>排出量の削減目標



CN実現に向けたロードマップ<sup>o</sup>



低炭素実現のための製品開発と販売の方向性



CN実現のための事業活動の方向性



背景・事業環境



CO<sub>2</sub>排出量の削減目標



CN実現に向けたロードマップ<sup>o</sup>



低炭素実現のための製品開発と販売の方向性



CN実現のための事業活動の方向性



私たちノーリツグループは、ガス・石油機器業界初の**エコ・ファースト企業**としていち早く地球温暖化問題への対応に着手し、CO<sub>2</sub>削減に取り組んで来ました。

日本政府は2020年にカーボンニュートラル実現を目指すことを宣言し、2021年には、2030年の新たなCO<sub>2</sub>削減目標を打ち出しました。

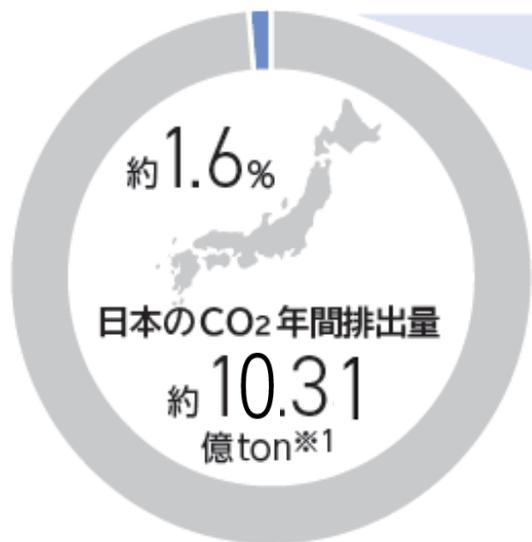
これを受け、ノーリツグループも**目標を設定**し、2050年**カーボンニュートラル**の実現に向けて取り組んでまいります。



## ノーリツグループが排出するCO<sub>2</sub>の現状

給湯で使用するエネルギーは、家庭全体で使用するエネルギーの29%※を占めます。給湯機器を製造・販売するノーリツグループ<sup>°</sup>(国内)の製品および事業活動により排出するCO<sub>2</sub>は、日本全体で排出されるCO<sub>2</sub>の約1.6%に相当します。この削減に取り組むことは、社会的責任であり、新しい企業価値創造にも繋がります。

※ 経済産業省 資源エネルギー庁「令和2年度エネルギーに関する年次報告（エネルギー白書2023）」より



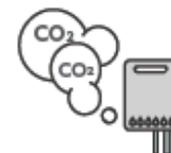
ノーリツグループの  
CO<sub>2</sub>年間排出量

約1,869万ton※2

※2 ノーリツグループ2022年実績

販売した製品使用  
による排出割合

約96%



その他事業活動  
による排出割合

約4%



※1 国立環境研究所 温室効果ガスインベントリ 日本の温室効果ガス排出量データ2022年速報値



背景・事業環境



CO<sub>2</sub>排出量の削減目標



CN実現に向けたロードマップ<sup>o</sup>



低炭素実現のための製品開発と販売の方向性



CN実現のための事業活動の方向性



# CO<sub>2</sub>排出量の削減目標

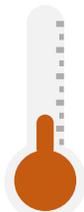
## 2030年目標

### 事業活動を通じた 低炭素社会の構築

国内事業所によるCO<sub>2</sub>  
排出量を2030年までに

**50** % 削減

(2018年度比)



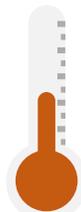
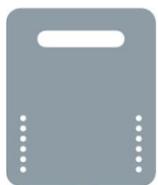
1.5℃水準

### 製品を通じた 低炭素社会の構築

国内で製造・販売する製品使用時の  
CO<sub>2</sub>排出量を2030年までに

**30** % 削減

(2018年度比)



WB2℃水準

## 2050年目標

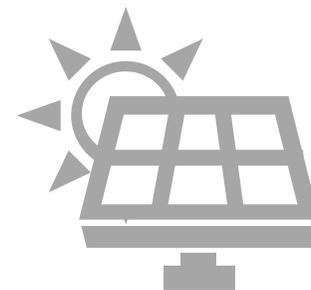
### カーボンニュートラル 社会の構築

事業所・製品とも海外を含む  
CO<sub>2</sub>排出量を2050年までに

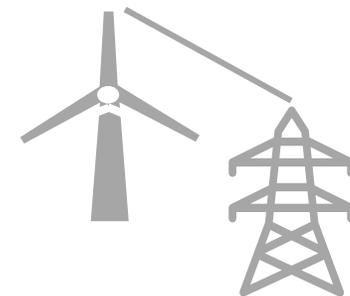
実質 **ゼロ化**



省エネ



創エネ



再エネ

日本政府の目標改定を受け、ノーリツグループも目標を再設定しました。  
2050年カーボンニュートラルの実現に向け、取り組みます。



背景・事業環境



CO<sub>2</sub>排出量の削減目標



**CN実現に向けたロードマップ<sup>o</sup>**



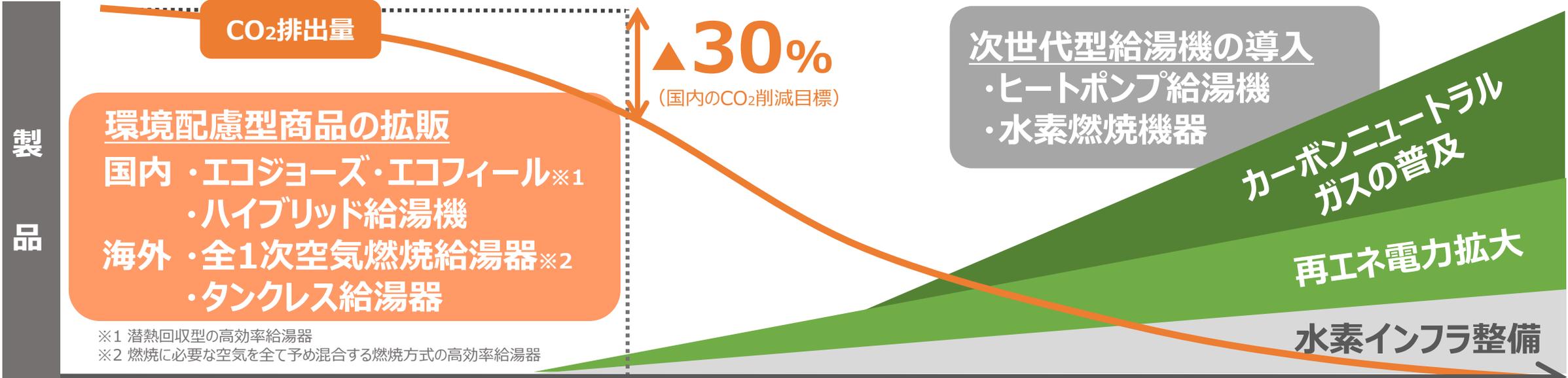
低炭素実現のための製品開発と販売の方向性



CN実現のための事業活動の方向性



# カーボンニュートラル実現に向けたロードマップ



## 地球規模でのCO<sub>2</sub>削減

ノーリツグループは、製品の「CO<sub>2</sub>排出総量」の削減に加え、事業拡大により排出量を抑制できる「CO<sub>2</sub>削減貢献量」の向上にもこだわり、事業成長と環境への貢献の両立を図ります。

### CO<sub>2</sub>削減



#### 国内を中心とした既存領域で製造・販売する自社製品からの「CO<sub>2</sub>排出総量」の削減

- ・製品の高効率化によるCO<sub>2</sub>排出量削減
- ・使用エネルギーの変換によるCO<sub>2</sub>排出量削減

・エコジョーズ  
・エコフィール  
→ P.12



#### 事業領域の拡大により自社製品への置き換えで排出量を抑制できる「CO<sub>2</sub>削減貢献量」の向上

- ・非住宅分野など事業領域の拡大機会でのCO<sub>2</sub>排出量抑制
- ・海外での販売拡大によるCO<sub>2</sub>排出量抑制

・ハイブリッド給湯機  
→ P.12

・非住宅  
→ P.13  
・海外  
→ P.14

## 低炭素・カーボンニュートラル実現に向けた投資

ノーリツグループは、低炭素・カーボンニュートラルの実現に向け、積極的に投資を行います。

投資項目	2030年に向けた 投資額累計	実施内容
研究開発	約 300億円	<ul style="list-style-type: none"><li>・次世代型給湯機の製品開発 (ヒートポンプ給湯機・水素燃焼機器 他)</li><li>・先行技術開発 (産学連携・公募事業の活用 他)</li></ul>
設備投資	約 400億円	<ul style="list-style-type: none"><li>・省エネ・創エネ設備の導入</li><li>・使用エネルギーのカーボンニュートラル化 (再エネ電力への切り替え, カーボンニュートラルガス活用 他)</li><li>・物流の最適化</li></ul>
合計	約 700億円	



背景・事業環境



CO<sub>2</sub>排出量の削減目標



CN実現に向けたロードマップ<sup>o</sup>



低炭素実現のための製品開発と販売の方向性



CN実現のための事業活動の方向性



# 低炭素実現のための製品開発と販売の方向性

国内  
(住宅)

## 既築住宅のエコ化促進と新築住宅のZEH対応

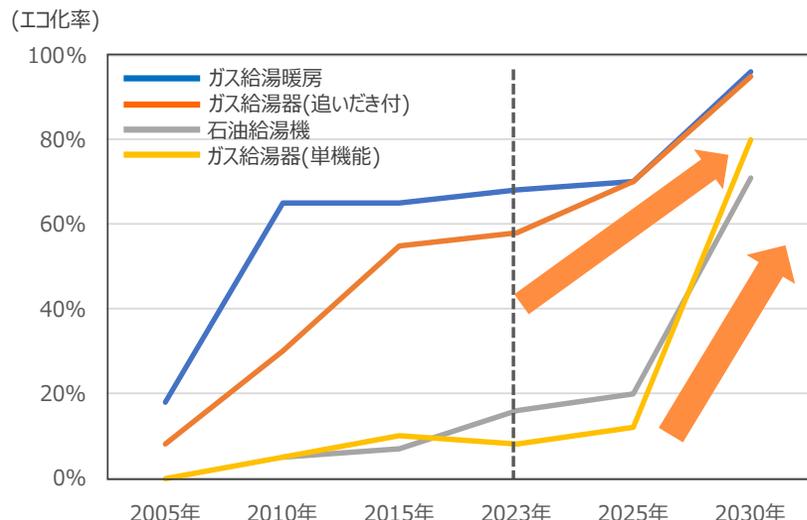
〈ZEH背景〉2025年：建築物省エネ法で定める省エネ基準への適合義務化  
2030年まで：省エネ基準をZEHレベルに引き上げ(法案提出予定)

### エコジョーズ・エコフィールの販売加速

「除菌」「見まもり」他  
社会課題に対応した  
高付加価値機能との  
セットで訴求



【エコ化率(エコジョーズ・エコフィール率)の向上】

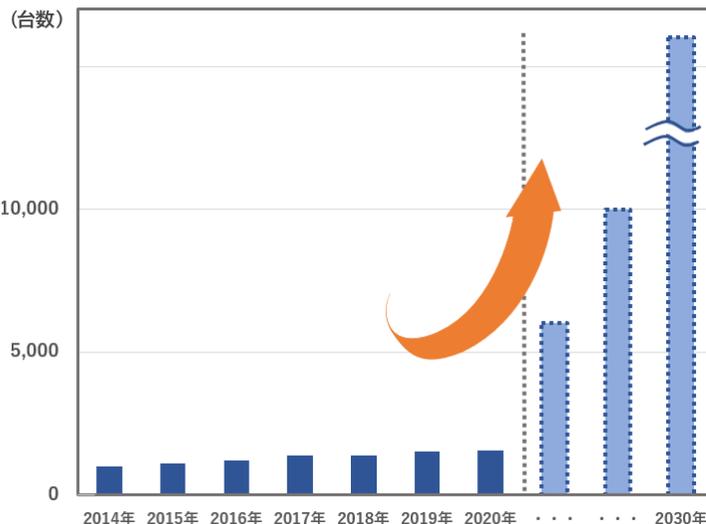


### ハイブリッド給湯機の標準化

業界最高レベルの環境性能  
(ZEH※1にも対応)の更なる  
高効率化と販売加速



【販売台数UP】



業界  
唯一

製品廃棄時の地球温暖化影響にも  
こだわり、ノンフロン冷媒採用(回収不要)

地球温暖化係数 = GWP

GWP:771

地球温暖化影響  
CO<sub>2</sub>の771倍

ユコパ HYBRID  
地球温暖化影響  
CO<sub>2</sub>の50分の1

GWP:1

GWP:0.02

R32

CO<sub>2</sub>

R290

業界初



メーターBOX内に設置可能な  
3Pハイブリッド給湯機拡販で  
ZEH-M※2の普及・拡大に貢献

※1 net Zero Energy House  
(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス) の略語  
断熱性・省エネ性能向上と創エネにより年間の消費  
エネルギー量を実質的にゼロ以下にする住宅  
※2 net Zero Energy House-Mansion  
(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス・マンション) の略語  
上記同様の集合住宅



# 低炭素実現のための製品開発と販売の方向性

国内  
(非住宅)

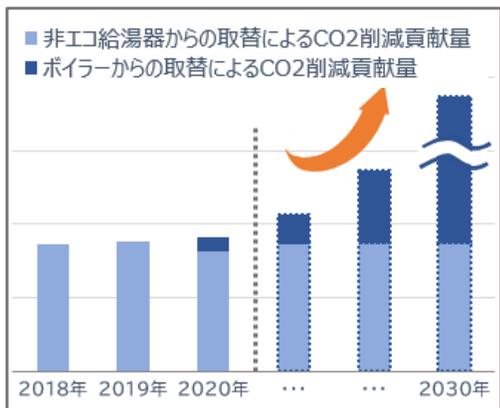
## 非住宅分野拡大による未開拓領域のCO<sub>2</sub>削減に貢献

### ボイラーからの取替促進

ボイラーからの  
取替で  
CO<sub>2</sub>削減貢献  
約20%  
(当社調べ)

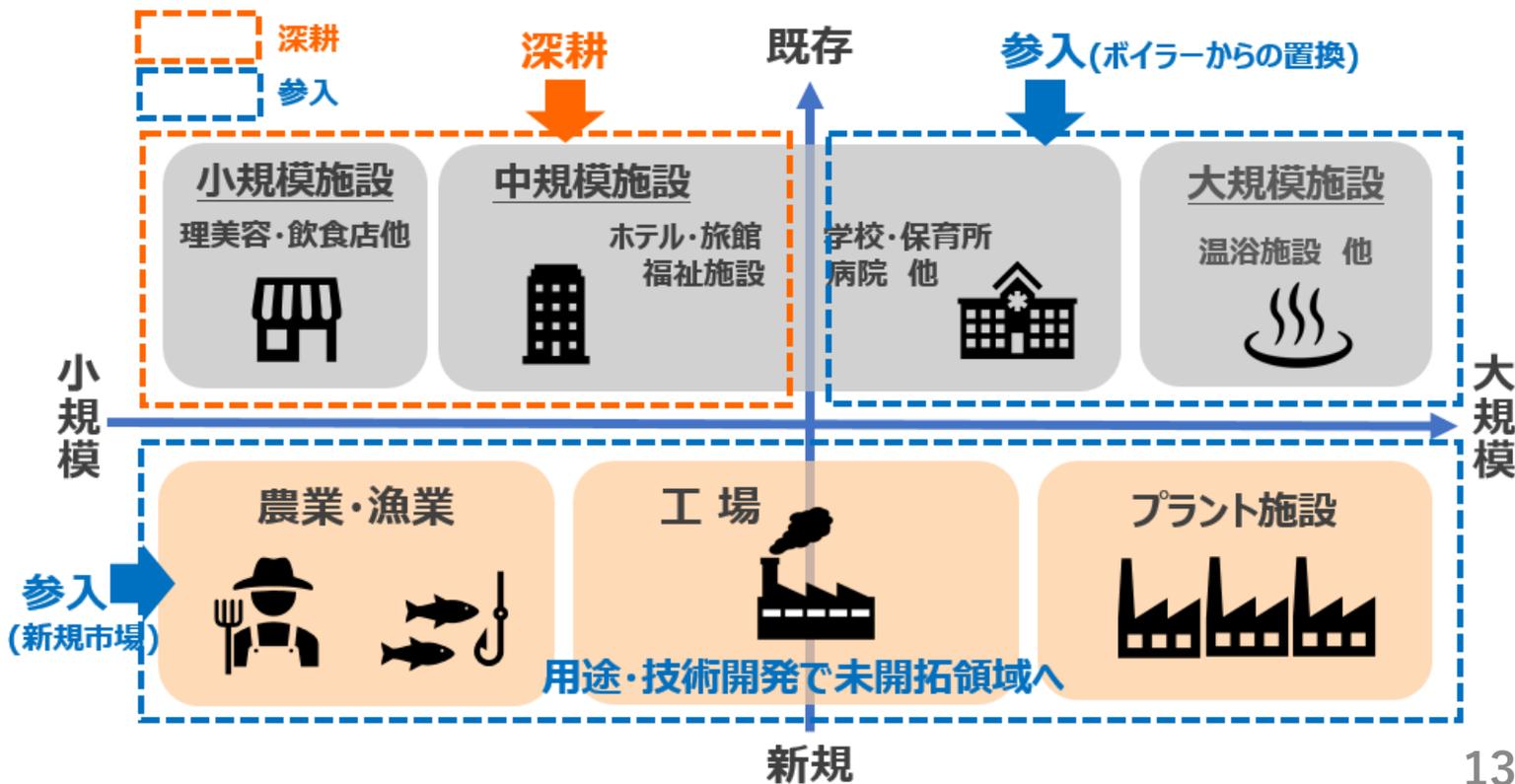


【CO<sub>2</sub>削減貢献量の向上】



屋内設置ボイラーからの取替を  
可能にした 排気集合アダプタ  
2021年発売 (エリア限定)

### 既存分野の深耕と用途・技術開発による新規参入





# 低炭素実現のための製品開発と販売の方向性

## 海外

## 各エリアの環境事情や国の政策・基準に応じた製品の投入

### 【北米・豪州】タンクレス給湯器への取替促進

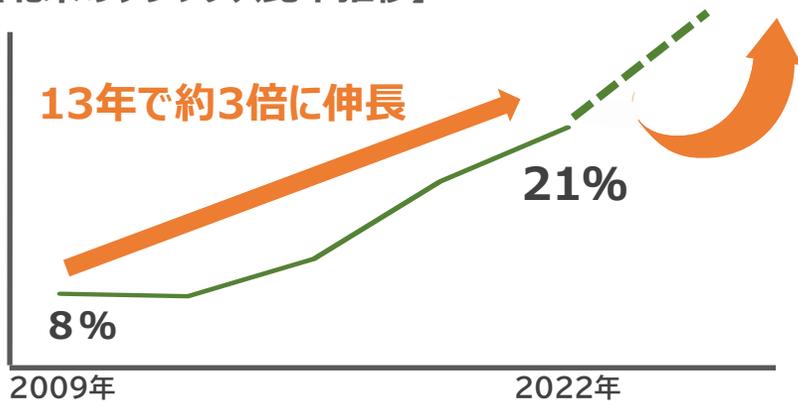


CO<sub>2</sub>削減貢献  
約34%※



※タンク式給湯器から全1次空気燃焼給湯器に取替の場合

### 【北米のタンクレス比率推移】 ※タンク式給湯器比



### 【北米】全1次空気燃焼給湯器の拡販加速

#### 幅広いラインアップの更なる強化

- ・様々な現場に対応可能な排気・配管設計
- ・業界最高クラスの高い熱効率と低NOx燃焼



#### 低NOx・全1次空気燃焼※バーナー



※燃焼に必要な空気を全て予め混合する燃焼  
低NOx化・高効率化、低炭素化を実現可能

### 【中国】ガス化(国策)への対応

#### 石炭からガスへの移行が進む地方都市への販売拡大



#### 高効率品のラインアップ強化

#### 暖房付給湯器の拡販加速と高効率化



# 低炭素実現のための製品開発と販売の方向性

技術  
革新

## 水素100%燃焼の次世代型給湯器

これまでと変わらない安全性・快適性実現への挑戦

水素を  
**安全**に  
扱う技術

水素対応バーナ  
フレームトラップで  
水素を安全に燃焼

インフラの  
**変化**に  
対応可能

従来のガスから  
水素まで1つの  
部品交換で対応

これまでと  
**同等**の  
快適性

少量のお湯(2.4号)  
から大量のお湯(24号)  
まで設定温度で出湯

日本をターゲットにした  
標準設置型

日本での標準の屋外設置可能な前方排気で、  
国内のモニター設置にも迅速に対応





# 低炭素実現のための製品開発と販売の方向性

技術  
革新

## 神戸大学との包括連携協定 社会課題解決型の技術開発

2022年4月より、研究・技術の発展と社会への貢献を狙いとして、3つの技術領域における共同研究を神戸大学と開始しました。また、人材交流やDX人材育成にも取り組んでいます。

### ■ 研究プロジェクト

脱炭素技術領域 Decarbonization technology

ウェルビーイング技術領域 Well-being

DX技術領域 Digital Transformation

### ■ スケジュール

- 2021年11月4日 包括連携協定の締結
- 2022年 4月～ 各研究テーマの決定および共同研究開始
- 2024年 4月～ 脱炭素技術領域、ウェルビーイング技術領域にて新たな研究を開始





背景・事業環境



CO<sub>2</sub>排出量の削減目標



CN実現に向けたロードマップ<sup>o</sup>



低炭素実現のための製品開発と販売の方向性



CN実現のための事業活動の方向性

# 🏢🏠 カーボンニュートラル実現のための事業活動の方向性

## RE100 (Renewable Energy100) 加盟

- 2020年 日本企業45社目の加盟
- 2021年 「RE100推進プロジェクト」発足
- 2023年～ 国内全グループ会社と共に実行フェーズへ

## RE100達成目標

2030年

国内のグループ会社含む  
生産事業所

再エネ電力100%化

2026年

NR明石本社工場

再エネ電力100%化

2050年

海外グループ会社含む  
全事業所

再エネ電力100%化

RE100

CLIMATE GROUP



・RE100達成ロードマップの策定



・再エネ電力化に向けた契約電力の見直し

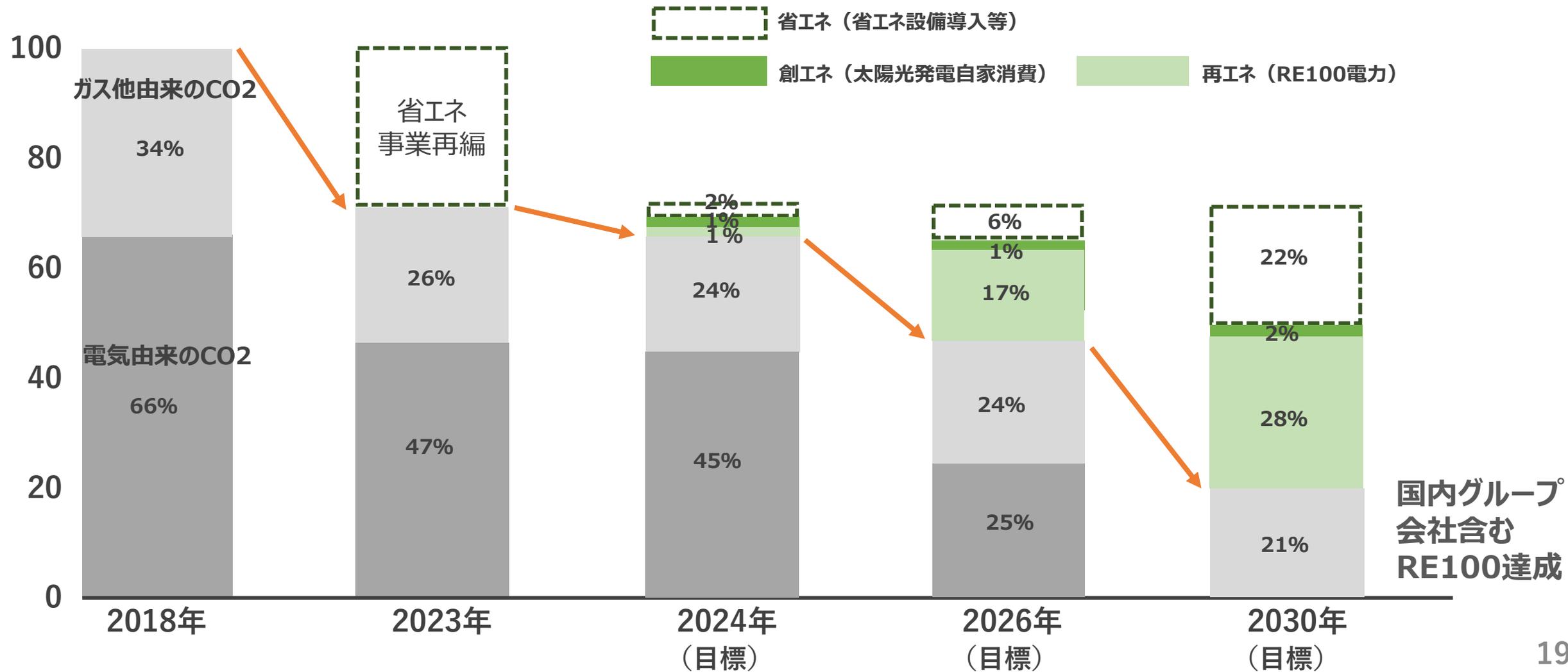
・太陽光発電・省エネ設備等の導入検討

・インターナルカーボンプライシングの導入

・全拠点で横断的な省エネ活動の強化

# カーボンニュートラル実現のための事業活動の方向性

## 国内生産事業所 CO<sub>2</sub>削減イメージ



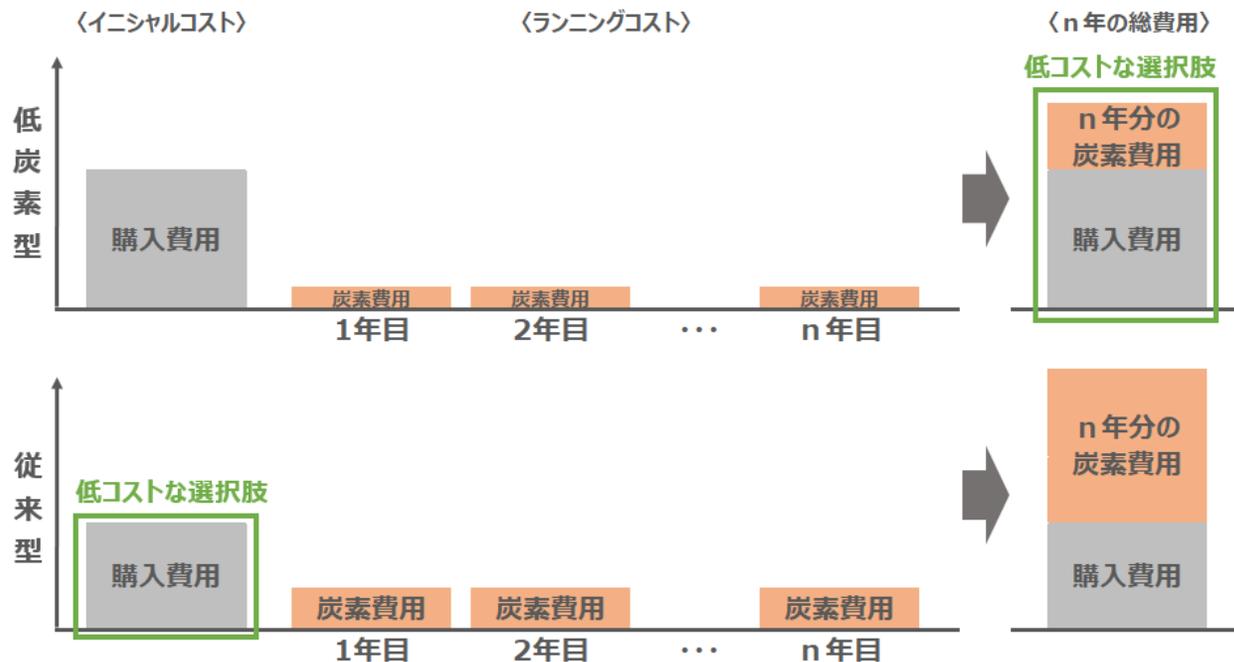
# カーボンニュートラル実現のための事業活動の方向性

## インターナショナルカーボンプライシングの導入

2022年1月「インターナショナルカーボンプライシング」(炭素排出量への価格付け)を導入しました。

### 導入の目的

2022年以降、投資・更新する設備のランニングコスト算出時に炭素費用を加味して選定を行う事でCO<sub>2</sub>削減につながる設備投資の優先順位を引き上げます。



### ノーリツのインターナショナルカーボンプライシング価格

国際エネルギー機関の炭素税見通しに準じた価格を採用しました。この仮想価格を使用し投資判断を行う事で、炭素税が導入された際の利益減少リスクを回避します。

仮想年	CO <sub>2</sub> 仮想価格
～2024年	0 円/t
2025年～	7,000 円/t
2040年～	15,000 円/t

# ノーリツグループのこれまでとこれから

ノーリツグループは、これまで時代の変化に合わせて、様々な環境への取り組みを進めて来ました。

これからも、CNの実現に貢献してまいります。



本資料における将来の予想に関する表明は、2024年4月現在において利用可能な情報に基づいて、当社の判断によりなされたものであり、将来の出来事や状況の変化により、予想とは異なる結果となる可能性があります。

また、将来の展望に関するいかなる表明の記載についても、様々なリスクと不確かさを伴っており、結果を約束するものではありません。

株式会社ノーリツ

<https://www.noritz.co.jp/company/csr/>